



東京 YMCA 医療福祉専門学校 専門性を生かし高齢者施設でワーク



2013年3月17日～3月20日の日程で、東京 YMCA 医療福祉専門学校学生9名・教員2名合わせて11名が石巻市でボランティアワークを行いました。

学生は全員介護福祉科の1年生であり、1年間の学習・実習の経験を生かして、市内の高齢者グループホーム施設で2日間奉仕をしました。このグループホームは石巻牡鹿半島で被災をし、内陸部に仮設移転をしており、これまで YMCA 歌の広場等のプロジェクトで何度も訪問をさせていただいておりました。

ワーク1日目は、学生たちが準備してきた、ちぎり絵アートをホーム利用者さんと共に作成しました。色紙をちぎって大きな台紙に貼り、大きな壁飾りを作ります。グループホームが元々あった石巻市鮎川浜は捕鯨猟が盛んだったので、海と鯨をモチーフにした絵を皆で作りました。グループホームであるので、利用者のみなさんは認知症をお持ちの方が殆どですが、予想以上に利用者の方々は元気で、学生が予想していたよりも遥かに早く絵を完成させることができました。絵の完成後は、お茶をしながら、利用者や職員の方々から、震災



ワーク最終日、作った作品とともに記念撮影

当日の話や、今の暮らしのことなど、様々なお話を伺いました。

ワーク2日目は、グループホームの日常の活動に参加させていただきました。天気が良かったので、学生は利用者さんと一緒に近くの公園に散歩に行きました。「今グループホームはこの公園の敷地内に仮設で立っています。仮設だけでも、すぐ向かいに小学校と幼稚園があるので、公園に来る子どもたちと高齢者が交流できるのです。震災によって色々な事が変わってしまっただけ、これはこれで嬉しい変化です。もちろん、こうやって多くのボランティアさんとの出会いがあるのも」という職員さんの話が印象的でした。

午後は、学生が用意してきたレクリエーションゲームで交流大会を行いました。風船あそびをしたり、パラシュートを広げたり、普段はゆっくりとした時間を過ごすことが多いグループホームの利用者のみなさんも、この時は体を使って元気に参加していました。介護士としての知識・技術面ではまだまだ学ぶこと多い学生も、今回のワークでは真摯に心を尽くして利用者に向き合うことで、会場はいつも温かい雰囲気に包まれていたように感じます。

グループホームは今年7月に市内に施設を新築し、仮設施設を卒業する予定です。しかし、建物は戻っても、被災した利用者・スタッフの心のケアはまだまだ必要に感じます。



ワーク1日目。ちぎり絵作成開始。認知症の方が多いので、適時学生がサポートをしながら作業をします。



ワーク2日目。パラシュートを使ったレクリエーション。利用者の方々も楽しそうな様子です。

東日本大震災復興支援活動募金

・ゆうちょ銀行(郵便振替)

振替口座:00120-7-714728

名義:公益財団法人 東京 YMCA 会員事務局

・銀行振り込み

みずほ銀行 神田支店 普通 1677931

三井住友銀行神田支店 普通 7656469

名義:公益財団法人 東京 YMCA

※「東日本大震災」とお書き添えください。